

令和6年度学校関係者評価

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

評価項目	評価指標	学校自己評価コメント	令和6年度 自己評価	令和5年度 自己評価	令和6年度 学校関係者 評価	令和5年度 学校関係者 評価	学校関係者評価まとめ
1 路障 まが えい たの 専 門 性 や の 特 高 性 い 等 教 育	1-① 児童生徒や保護者のニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。	○児童生徒一人一人の実態把握を丁寧に行い、活動内容や支援方法を検討した上で作成した個別の指導計画を、保護者と共有し教育活動に取り組むことができた。その結果、能力の伸長、困り感の軽減・解消がみられた。 ○ICT機器を使って授業を進めることで、学習内容の理解が進んだり、集中して教師の話を聞いたりすることに繋がった。 ○作成した教材教具を職員間で共有し、効果的に活用することができた。 ●障がいの特性や発達段階の把握等を踏まえた専門的な支援について、さらに学校全体の力を高めていく必要がある。	3 (3.2)	3 (3.1)	4 (3.5)	4 (3.6)	○児童生徒一人一人に合わせた個別指導が出来ていると思う。また、ICT機器の活用や教材の職員間で共有し、効果的に活用できていることが良い。 ○児童生徒の個別の指導計画については具体的な内容を把握していないが、発表会や運動会などにおいて教師が児童生徒に寄り添い、個別に声をかけたり支援したり、指導したりしている姿が見られた。 ○学校訪問した際の印象では児童生徒の個性をよく把握し、能力を引き出す努力を十分にされていると感じた。 ○児童生徒一人ひとりの状態や特性に応じた指導や支援を行い、それぞれに一定の教育成果を上げていることを評価したい。今後も学校全体で連携して目標に向かって粘り強く取り組んほしい。 ○個々の特性やニーズに合わせた学習指導は大変だと思うが、みや央美術館の作品や作業班活動に真剣に取り組んでいる姿を見て、先生方の日々の努力を垣間見ることができた。これからも引き続き指導をお願いしたい。 ●PDCAを効果的に導入し、今年度の個別の支援計画を評価し、改善して、次年度の指導計画に活かせるよう年度末に指導計画に未書するなどの工夫改善をさらに進めていってほしい。 ●児童生徒の学校での状況に加えて、保護者の願いや思いを加味した個別の支援計画となるようさらに充実してほしい。
	1-② 根拠に基づく指導が行われるよう、実態把握や指導計画の作成、評価を行っている。		3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.0)	3 (3.4)	
	1-③ 学習効果を高めるために教材教具の工夫や改善を行っている。		3 (3.2)	3 (3.3)	3 (3.0)	3 (3.2)	
2 組 織 的 な 課 題 に 対 し て の 応 あ し た 教 育 的	2-① 学校、家庭、寄宿舎が連携して効果的な指導を行っている。	○学校と寄宿舎が連携を図り、共通した指導方針で対応していくことで、生徒の安定した学校生活につながった。 ○職員研修については、外部講師を招聘し、指導の在り方や学習評価の考え方に関する専門的な研修など充実した研修を実施することができた。 ○コンプライアンス校内研修で、全職員で学校の課題を自分事として捉え、対策等を共通理解し、今年度の目標をほぼ達成することができた。 ●家庭との連携のみならず職員同士がさらに連携を深める必要がある。特に学部間を超えた連携が必要である。 ●校内研修の内容を各自で咀嚼し深める時間が必要である。研修を受けるだけで満足している面がみられる。 ●コンプライアンスに関する金銭の管理の面で、職員から出された意見をもとに新たに担当を作ること、仕事内容の整理と職員の負担軽減に取り組みたい。	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.4)	○日頃から、学校と保護者、寄宿舎等との連携ができ、生徒の安定した生活につながっていることは評価できる。 ○在籍する一人一人の児童生徒が、特性と発達に真正面から向き合い、校長先生をはじめとした先生方の努力で「笑顔」「力」「夢」をいっぱい身に付ける学校になるようさらに尽力してほしい。 ○施設内見学や先生方の話から学校や家庭、寄宿舎との連携が出来ていると感じた。学校だけでなく生活面の情報もしっかり把握し教育に繋がられていることを感じた。 ○学校教育には常に「不易」と「流行」が伴う。また、学習指導要領の改定の時も間近に迫っている。職員研修を充実させ時代が求める教育が今後とも展開されることを期待している。 ●児童生徒の指導や支援の為に、学校全体の教職員の質の向上が不可欠である。職員研修のあり方の見直しなど、なお一層の取り組みを期待したい。 ●どの職場も同じだと思うが、職員間の連携、意見を言い合える環境の整備は大切である。研修等を重ね、職場のルールやコンプライアンスの更なる遵守に努めてほしい。
	2-② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究になっている。		3 (3.1)	3 (3.1)	3 (3.0)	3 (3.0)	
	2-③ 職員研修の内容は適切で、専門性や資質の向上を図っている。		3 (3.3)	3 (3.1)	3 (2.9)	3 (3.4)	
3 小 中 高 一 貫 し た キ ャ リ ア 教 育	3-① 児童生徒の自立と社会参加を目指し、小中高一貫したキャリア教育の推進している。	○課題研究として昨年度と今年度の2年間かけて、小・中・高12年間を見通した学習計画の見直しを行ったことで、本校に関する一貫した教育という視点を職員全体で意識することができた。 ○進路に関する情報収集の場として事業所説明会を開催し、多くの保護者や生徒に将来の進路に関する理解を深めることができた。また、就労している卒業生から、学校と職場の違いや就労してのやりがいや苦労などを在校生に直接伝える機会を設けることができた。 ●キャリア教育の実態評価表などがあるがうまく活用できていないところがある。進路指導の流れなど学部間を超えて共通理解しておく必要がある。 ●高等部卒業後の自立した生活のために小学部、中学部の段階で身につけておくべき力等を明記し職員全体で共有することで、キャリア教育をさらに充実させていく必要がある。	3 (2.9)	3 (2.9)	3 (3.3)	3 (3.2)	○高等部卒業後の自立と社会参加に向けて、「作業学習」や「道路学習」や「進路指導」などのさらなる充実を期待したい。 ○文化祭で就職活動を行う生徒が個々の個性を生かし実習している姿から、それぞれのニーズに応じた進路指導が行われていることを感じた。 ○運動会やみや央祭の作業班活動等において、小学部や中学部の児童生徒が、高等部の先輩たちの振る舞いや頑張りを学ぶといった効果を目にすることができ、小中高一貫した教育の良さを感じることができた。今後も、個々の成長に合わせた教育が展開されることを期待している。 ○高等部卒業後の自立した生活のためのキャリア教育は難しい課題だと思う。いろいろと工夫されて取り組んでいることを評価したい。子供たちの自立した生活の為に、何よりも保護者の理解を得ながら取り組んでいく必要があると思う。 ●進路に関して、生徒や保護者だけでは情報収集は難しいところがあるため、事業所説明会等の開催は今後も継続できるとよい。また、卒業生の体験談も参考になると思う。 ●小学部・中学部・高等部で12年間学び児童生徒にとって、高等部卒業後の進路は重要になってくる。小・中・高等部が連携したキャリア教育を推進し、卒業後の「自立」と「社会参加」の充実につなげほしい。
	3-② 個々のニーズに応じた進路指導や進路相談等を行っている。		3 (3.1)	3 (3.2)	3 (3.2)	4 (3.6)	
	3-③ 保護者や関係機関と連携した進路支援の充実を図っている。		3 (3.1)	3 (3.2)	3 (3.0)	3 (3.4)	

令和6年度学校関係者評価

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

評価項目	評価指標	学校自己評価コメント	令和6年度自己評価	令和5年度自己評価	令和6年度学校関係者評価	令和5年度学校関係者評価	学校関係者評価まとめ
4 か情 ら報 信の 類発 せ及 るび 学保 校護 づ者 くり 地域	4-① 地域の資源や人材を生かした学習活動に取り組んでいる。	○学校間交流や居住地校交流など昨年度より多く実施することができた。学校間交流では、相手校を訪問しての直接交流を多く実施することができ、双方に取って有意義な取組となった。 ○「学校支援アドバイザー事業」を活用して外部講師を招き、具体的な支援方法や助言をもらい、児童生徒の支援に生かすことができた。 ○国際交流でALTや防犯関係で警察の職員、その他、関係機関の方を講師に招いて様々な教育活動を展開し、多くの地域資源や人材を生かした学習活動の実施に努めることができた。	3 (2.9)	3 (2.7)	3 (3.2)	3 (3.2)	○外部講師を招いた研修会等の開催は、良い取り組みである。 ○文化祭の中で修学旅行の報告があったが、トラブルがあっても可能な限り計画を遂行された姿勢がとても印象的だった。生徒の経験という利益を最優先した姿に感動した。 ●時代は「インクルーシブ教育」や「多様化学校」など、障がいがある人となない人の垣根を取り払う方向に進んでいる。しかしまだまだ違い状況にある。特別支援学校を飛び出し、近隣の小・中・高校や地域住民との交流などをさらに推進し、児童生徒の社会参加を進めてほしい。 ●学校内だけでなく、他の学校の生徒や地域との交流は、大きな経験値になると考える。これからも交流の機会を増やしていけると良い。 ●残念ながら中央支援学校の情報を地域住民として接する機会はほとんどない。住吉地区にとって中央支援学校は大切な財産でもあるので、今後無理のない範囲での情報発信を期待したい。
	4-② 保護者や地域に学校の取組や必要な情報を伝えている。	●地域に対する情報発信が不足している。学校の活動等を広く地域の方々にも情報提供していくことで本校への理解を深め、地域の協力を得やすい環境作りを行っていく。 ●学校間交流で相手校との認識の違い等もみられるので、本校から相手校職員への研修などの啓発活動を行うことで、さらによい交流が行えるようにしていく。	3 (3.1)	3 (3.1)	3 (3.1)	3 (3.0)	
	4-③ 近隣の小中学校との学校間交流や居住地校交流を推進している。		3 (3.1)	3 (2.9)	3 (3.0)	3 (3.2)	
5 の地 セ城 ンの特 ー別 的支 援能 教育	5-① 地域の小・中学校等に特別支援教育に関する相談や情報提供を行っている。	○チーフコーディネーターが中心となり、地域の学校等に出向き必要なアドバイスや助言を行うことができた。 ○今年度からスクールカウンセラーが月1回来校し、児童生徒のカウンセリングを行うことで、課題を抱える児童生徒が安定して学校生活を送ることができるようになっている。 ○5年ぶりに放課後等デイサービス等の担当者集会を実施し、登下校等に関する共通理解を図ることができた。 ●家庭支援が必要な家庭が増えている。医療・福祉等の関係機関と情報共有し連携を図りつつ支援を進めているが、解決が難しいケースが増えている。	3 (3.2)	3 (3.0)	3 (3.1)	3 (3.2)	○就学前や卒業後等、学校と福祉サービス事業所との連携、情報共有をしている。また、コーディネーターの先生方と地域を巡回し、様々な助言をもらい、参考になっている。 ○それぞれの生徒に応じた対応は多くの困難があると思うが、個々のニーズに応じた対応がなされていると思う。 ○地域の学校等や関係機関、家庭にとって専門性の高い中央支援学校は頼りになる存在だと思う。現在の活動を高く評価するとともに、今後とも学校全体で取り組んでほしい。 ○小・中学校はもちろんのこと高等学校においても、発達障がいの児童生徒が増えている状況にある。ほとんどの小・中学校には特別支援学級が設置されているが、特別支援教育の免許を取得していない教師も多くいる。特別支援学校に勤務しているような児童生徒の指導や支援をしている特別支援教育のプロとしての経験を、広く管内の小・中学校に指導してほしい。 ●家庭支援の大変さは認識している。学校だけでは解決できない事案も増えてきていると思うので、引き続き、関係機関等とのネットワーク構築の取り組みは進めてほしい。
	5-② 福祉や医療機関等、関係機関との連携を図っている。	●地域に特別な支援を必要とする児童生徒が増えており、チーフコーディネーターの負担が大きくなっている。地域のそれぞれの学校が学び解決していく体制作りが必要となってきている。	3 (3.3)	3 (3.2)	3 (3.0)	3 (3.4)	
6 の安 整全 備・安 心な 教育 環境	6-① 施設や設備は安全に管理・維持されている。	○施設設備の定期的な点検に加えて、全職員、PTA役員による点検を実施した。その際、危険箇所や生徒の安全面で対応が必要としてあげられた箇所については、早急に安全対策を取った。 ○火災や地震の避難訓練、引き渡し訓練、警察官を招いての不審者対応の研修等を実施し、緊急時の対応を全職員で確認した。 ●第1棟南側、第1棟と第2棟の間、玄関前駐車場など雨天時に水たまりやぬかるみができ、児童生徒の送迎時に支障がでてきており、保護者からも改善してほしいという意見が出されている。	3 (3.1)	3 (3.1)	3 (3.1)	3 (3.2)	○引き続き災害時や不審者対応等の研修や訓練を繰り返し行い、しっかりとした対策を検討することが必要だと思う。 ○施設整備・点検が定期的に行われており、児童生徒がしっかり学べる環境が整っている。 ○学校や宿舎の見学の中で、よく整理整頓されている。保護者（PTA役員）を含めた施設設備の点検は有意義だと思う。 ○定期的な訓練や点検は重要であると考えている。今後も児童生徒が安心して学校生活が送れるよう努めてほしい。 ●学生の教員離れが進行している中、学校の働き方改革の推進が不可欠となっている。教師も人として教育に意義を感じるための「ライフ＆ワークバランス」の調和を図り、働きやすい環境づくりを推進してほしい。 ●中央支援学校は災害時の緊急対応だけでなく、児童生徒の災害時避難所（福祉避難所的な）としての役割も担うことになると思われる。その準備も進めてほしい。
	6-② 災害や不審者対応等、緊急時の対応が整備されている。	●不審者や緊急時の対応については、今後レギュラーな場面も含めて臨機応変な行動ができるよう訓練していく必要がある。 ●R7年度から高等特別支援学校（仮称）の工事が開始されるので、学校運営に支障がないよう今年度中に対策を立てておく。	3 (3.2)	3 (3.0)	3 (3.0)	4 (3.6)	